

○次のフェーズに向けた岩手県内の体制構築の為のCDN事業

「被災者・被災地の課題解決を図るコーディネート」「岩手県内の支援体制構築・強化」「被災地の現状とノウハウを全国へ発信」の3を軸とした取り組みを、岩手県沿岸部で活動する中間支援NPO等と協働で行いました。

○被災者の主体性醸成による地域コミュニティ支援事業

被災者の心の復興に資する取り組みを行うもので、主に災害公営住宅の自治会向けのコミュニティ形成支援を行う事業です。今年度も岩手大学の船戸義和特任助教とともに、岩手・宮城の両県にて、自治会及び支援者の交流事業や、防災訓練等を絡めたコミュニティ形成支援を実施しました。

○JCN地域コーディネート推進事業

東北の課題を全国につなぎ、ともに考える事業です。具体的には、3.11の今がわかる会議（東京・東海・九州）の登壇者調整や現地運営、3.11ユースダイヤログの登壇者調整や現地運営等を行いました。

○東北6県の相互支援ネットワークを構築する事業（東北六県ROLL）

東北広域を活動領域とする、一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンターを事務局として、いわて、みやぎ、ふくしまの連携復興センターと、青森、秋田、山形の中間支援NPOと東北圏域でのネットワーク構築を目指し東北六県ROLLを行った。

みちのく復興・地域デザインセンターとは？

■設立趣旨

東日本大震災からの復興を進めるために、

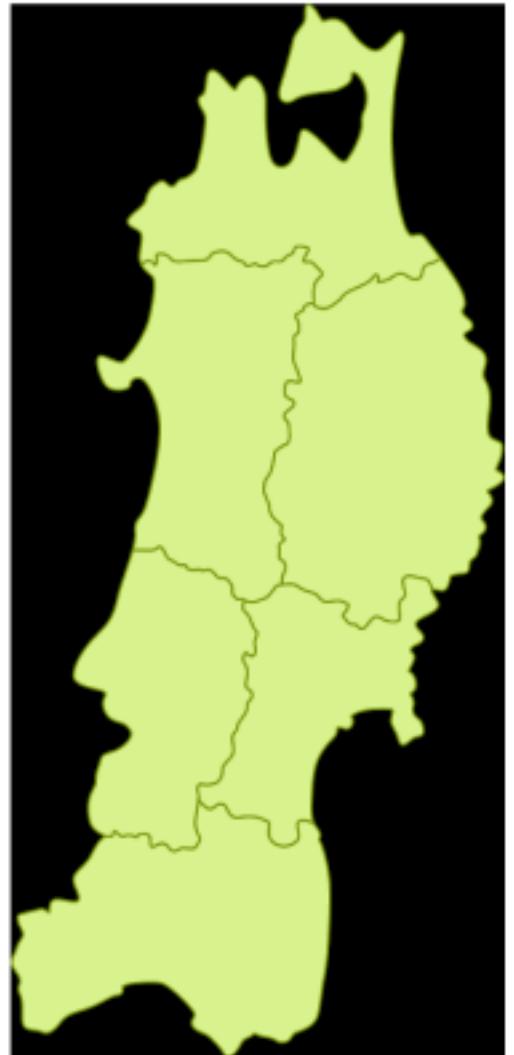
特定非営利活動法人いわて連携復興センター
一般社団法人みやぎ連携復興センター
一般社団法人ふくしま連携復興センター

の3県の復興連携センターと連携しながら、東日本大震災からの復興に向けたコーディネートに取り組んで参りましたが、今後さらに東日本大震災からの復興を推進し、復興経験を活かした東北地方の持続可能な地域づくりが継続して推進される状況を実現するためには、復興に取り組む3県域の機能強化、及び3県域以外からの関心喚起や資源の掘り起こしが必要と考えております。

3県域において、

「市民活動分野の調査・研究」
「復興支援活動がさらに推進する為の3県域のコーディネート」
「調査・研究・コーディネートでえられた知見・経験に基づく提言・発信」

の活動を通し、東北外で災害復興や防災、また平時の地域づくりに取り組む皆様に、東日本大震災からの復興経験を波及・活用し、持続可能な地域づくりに資する地域間ネットワークを構築する事を目的として3県の連携復興センターにより、【一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター】を設立します。



みちのく復興・地域デザインセンター概要

■法人概要

名称	一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター
設立	平成31年3月5日
代表理事	天野和彦 (一般社団法人ふくしま連携復興センター 代表理事) 木村正樹 (一般社団法人みやぎ連携復興センター 代表理事) 葛巻 徹 (NPO法人いわて連携復興センター 代表理事)
所在地	〒980-00142 宮城県仙台市青葉区本町3丁目 1番17号 やまふくビル3F
TEL	022-797-6708
FAX	022-797-6788
事業内容	災害復興や持続可能な地域づくりを推進するための調査、研究 災害復興や持続可能な地域づくりを推進するためのコーディネート 調査、研究やコーディネートから得られた知見・経験に基づく提言・発信

東北六県ROLLとは？

■東北六県ROLLとは？

持続可能な被災者支援の検討と東北圏域での連携体制基盤づくり

>被災者支援に係る現状、課題、優良事例等の共有及び全国への波及

- これまでの取り組みで得られた知見や学びを被災地内へ共有し、今後の継続的な被災者支援へ活かすと共に、被災地外へ発信する事で、今後の災害対応や平時の地域づくりに活かせる教訓として全国で活かしていただきたいと考えています。また、各県の連携復興センターと協働で主催した「3県合同シンポジウム」も継続開催し、重要な支援策や未来への提案など、被災者支援につながる役割を認識して意見交換を重ねより良い形で実施してまいります。
- 被災地からの経験と学び、ノウハウを地域資源の類似性が多く存在する青森県・秋田県・山形県において共有すると共に、この3県での取り組み事例や、支援ノウハウを共有し、被災者支援団体同士が相互支援できるような新しい東北のプラットフォームの構築を目指してまいります。

東北六県ROLLのこれまで

■ 2022.3.11（オンライン開催）

東北六県ROLLフォーラム

- ・東日本大震災被災地におけるコーディネーションのメカニズム
- ・コーディネーターの意義や価値、被災地で得た学びについての共有
- ・青森、秋田、山形での現在のNPO等の状況の共有（現状、課題、展望）
- ・岩手、宮城、福島での被災後のNPO等の活動状況
- ・六県ディスカッション「東北のこれから～市民レベルのつながりに向けて～」

●登壇者

- | | |
|--------|------------------------------|
| ・斎藤 雅美 | NPO法人あおもりNPOサポートセンター 理事長 |
| ・畠山 順子 | NPO法人あきたパートナーシップ 理事長 |
| ・高橋 由和 | NPO法人きらりよしじまネットワーク 事務局長 |
| ・葛巻 徹 | NPO法人いわて連携復興センター 代表理事 |
| ・木村 正樹 | 一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター 共同代表 |
| ・天野 和彦 | 一般社団法人みやぎ連携復興センター 代表理事 |
| | 一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター 共同代表 |
| | 一般社団法人ふくしま連携復興センター 代表理事 |
| | 一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター 共同代表 |

「東北六県ROLL宣言～市民レベルのつながりに向けて～」

私たちは本シンポジウムにおいて、東北で活動するわたしたちが団体としての意志を持ち、それぞれの背景のもとで活動する事について、互いに尊重し合うことを確認した。その上で、これまでの活動を通じて培われた知見や人材の共有を行い、豊かな東北の実現に向けて取り組む必要性と重要性について共通の認識がなされた。私たちは、本シンポジウムを契機として、今後、東北六県で市民活動における協働のプラットフォーム「東北六県ROLL」構築に向け協議を開始することを宣言する。

■ 2022.5.13（オンライン開催）

JVOAD全国フォーラム分科会

「東北六県防災に取り組む

担い手の交流会」

東北の中でどんな方々が防災、減災の活動の担い手なのか、お互いを知る事と災害に備え日常からどんな活動を行うのか学び合う交流会。東日本大震災からの復興過程での知見として、ネットワークとコーディネーターの機能について共同代表の葛巻より紹介。前半は東北での実践者のみなとのトークセッションを行い、後半はテーマごとにグループワークによる交流を2回に分けて実施。東北以外からの参加者が非常に多く、東日本大震災の支援活動に関わられた方がほとんど。東北への注目度の高さを改めて実感。

●登壇者

- | | |
|--------|--------------------|
| 遠藤 智栄 | 地域会社デザイン・ラボ |
| 真壁 さおり | みやぎ災害対応円卓会議（みやまる） |
| 天野 和彦 | 一般社団法人ふくしま連携復興センター |
| 瀬川 加織 | いわてNPO災害支援ネットワーク |

●交流会テーマ

災害に備えて平時から取り組んでいること、取り組みたいこと
東北で取り組みたいこと

青森県でのシンポジウム開催について

■ 令和4年1月17日（火）

秋田県における取組紹介と地域セクターと行政の協働シンポジウム

■ 「東北六県ROLLこれからミーティングin青森」の開催

東北には非常に豊かな資源が存在しています。その資源を最大限に活かし、東北の新しい価値を見出し育て、今以上に東北全体の力をつけていくことが望まれます。そのためには市民活動団体がさらなる力をつけていくことが不可欠です。東北六県の様々な機関が手を取り合ってネットワークを構築していくことで、東北の新しい価値をつくり出すことが可能になります。また、その東北の新しい多くの価値を全国に向けて発信していくことで、強い東北の姿を示していきたいと思っております。そのため多くの地域セクターがパートナーシップを築き、新たなプラットフォームを築いていくためのキックオフと位置づけ、開催したいと考えております。

■ 開催テーマ「地域セクターのパートナーシップを築くために」

解決すべき社会課題は多く存在していますが、中でも近年頻発している自然災害への対応はどの地域にも必要とされる大きな課題となっています。その解決のためには地域におけるあらゆるセクターの協働が欠かせないと考えます。お互いの活動をより深く知ること、得意なことをいくつも知ることで、それぞれの得意分野や経験値を活かしながらの連携を進めることができます。そのために過去の災害時の対応事例を共有することで、そこから学び今後起こりうる自然災害への対応につなげていくことが可能となります。また、災害対応を通して協働の体制を構築していくことで、地域の体制強化にもつながります。多セクターのパートナーシップを築いていくことで、課題から取り残される方が出ない社会を目指し、まずは東北六県の協働を進めていくための1歩としたいと考えます。